

危険物を扱う配管について - 西日本防災システム

危険物を取り扱う配管として用いる強化プラスチック製配管の基準について

消防危第144号 平成21年8月4日 付け

危険物を取り扱う強化プラスチック製配管については「危険物を取り扱う配管等として用いる強化プラスチック製配管に係わる運用基準について」(消防危第23号)により運用されていますが、今般強化プラスチック製配管について23号通知の基準に依らずとも安全性が確保される場合があると確認されましたので従来運用されていました23号通知が下記の通り改められましたのでお知らせいたします。

本文改正内容

- 1 (1)中「使用圧力」の次に「及び取り扱う危険物の種類」を追加。
- 〃 (3)を削除し(4)を(3)とする。
- 2 (3)中「1(4)の但し書きに規定する」を削除。
- 〃 (4)中「金属配管について地盤面から65cm以上の根入れをとり 1(4)に規定する地下ピット内で強化プラスチック製配管に接続すること」を「次のいずれかの方法によることに」に改め、同(4)に次の① ②及び表Aを加える。
 - ① 金属製配管について耐火板により地上部と区画した地価ピット内において強化プラスチック製配管に接続すること。
 - ② 金属配管について耐火板により地上部と区画した地下ピット内において耐火板から120mm以上離れた位置で強化プラスチック製配管に接続すること。

図1参照

施工にあたり下記項目に留意すること。

- ◎ 地上部と地下ピットを区画する耐火板は次表に掲げるもの又はこれらと同等以上の性能を有するものとする。
- ◎ 耐火板の金属製配管貫通部の隙間を金属パテ等で埋めること。
- ◎ 耐火板は火災発生時の消火作業による急激な温度変化により損傷することを防止するため鋼製の板等によりカバーを設けること。

耐火板の種類	規格	必要な厚さ
けい酸カルシウム板	JIS A 5430「繊維強化セメント板	25mm以上
せっこうボード	JIS A 6901「せっこうボード製品」	34mm以上
ALC板	JIS A 5416「軽量気泡コンクリートパネル	30mm以上

表A 耐火板の種類と必要厚さ

- 2 (7)中「なお、強化プラスチック製配管の結合に係わる技能講習については社団法人強化プラスチック協会がFRP管継手接合技能工集会を実施予定であること」を削除。
- 3 (1)中次のいずれかによることの次に図2参照を加える



西日本防災システム

NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>

- 西日本防災システム

図の改正内容

「図」を「図2」に改め本文の次に下図を加える。

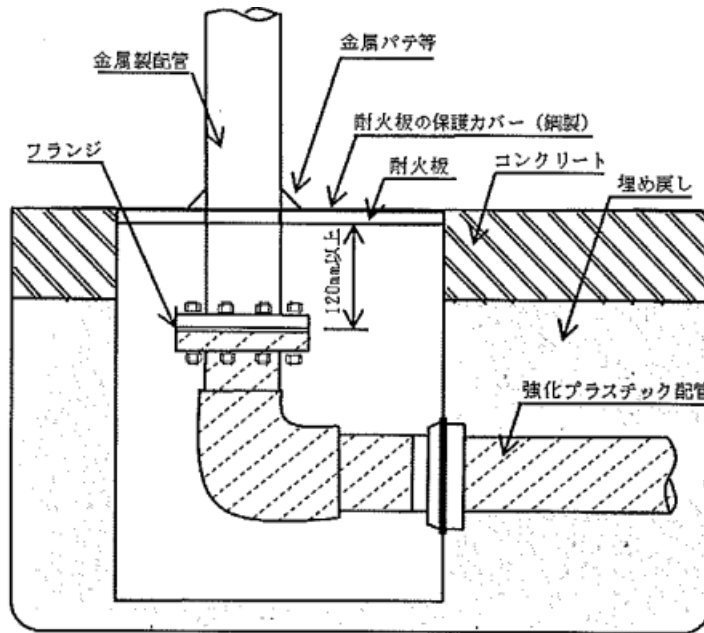


図1 金属製配管と強化プラスチック製配管の接続例

